

4) ヒレグロ資源調査

石原 幸雄

目的

ヒレグロは本県沖合底びき網漁業の主要漁獲対象種の一つである。資源の適正な利用を図るため、本種の生態及び資源水準を把握する。

方法

本県沖合底びき網漁業の基地である田後漁協（田後）、鳥取県漁協網代港支所（網代）、鳥取県漁協本所（賀露）の漁獲量及び金額を集計した。

当該3漁協（支所）のうち、近年、漁獲の最も多い田後漁協を代表漁協（支所）とし、田後漁協の主要陸揚港である境漁港において水揚げされた漁獲物の体長を測定した。

また、漁期中、原則毎月1回魚体を購入し、体長、体重、性別、生殖腺重量などを測定した。さらに、銘柄別漁獲量を集計し、前述の生物測定結果等から本県におけるヒレグロの体長別漁獲尾数を算出した。

結果

(1)漁獲量等の推移

1975～2006年までの鳥取県における漁獲量と単価の推移を図1に示した。漁獲量は1984年に1,471トンに達した後、減少傾向に転じ、1994年には191トンにまで減少した。1995年以降は増減を繰り返しながらも微増傾向にあったが、近年は400トン程度で推移しているもの若干減少傾向が見られる。なお、2006年は350トン（前年約11%減）の漁獲量であった。

一方単価は、漁獲の減少に応じ上昇しているが、1991年に736円/kgを最高にそれ以降年々低下している。2004年以降単価は若干上昇しており、2006年は226円/kg（前年約4%増）であった。

次に、月別漁獲量の比較を図2に示した。2006年は、1～2月、11～12月については、平均（過去5年）を上回る漁獲であったが、それ以外の月は平均、前年を下回る漁獲であった。特に9月については、2002年以降で最低の34トンであった。

また、表2に田後漁協における2006年の月別銘柄別漁獲量を示した。銘柄①～③の大型の個体は少なく、銘柄⑥～⑧が多く、主体に漁獲されている。

(2)推定漁獲尾数

漁獲状況調査及び生物測定調査から推定した鳥取県における月別雌雄別体長別漁獲尾数を図3及び表2に示した。推定年間漁獲尾数は雌で約272万尾、雄で約15万尾で、雌は前年より約121万尾、雄は約66万尾少ない水揚げであった。前年同様に本年も、雌は年間を通して体長20cm強にモードがあった。

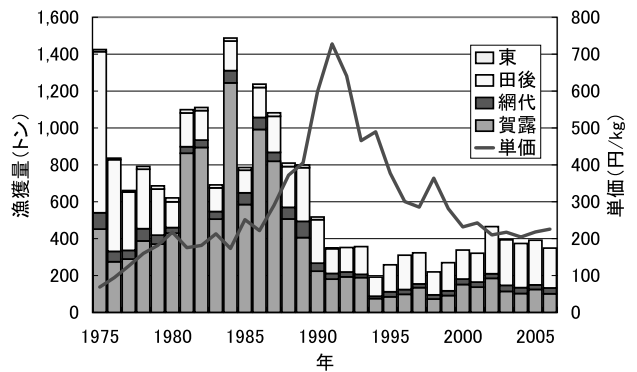


図1 鳥取県におけるヒレグロの漁獲量と単価の推移

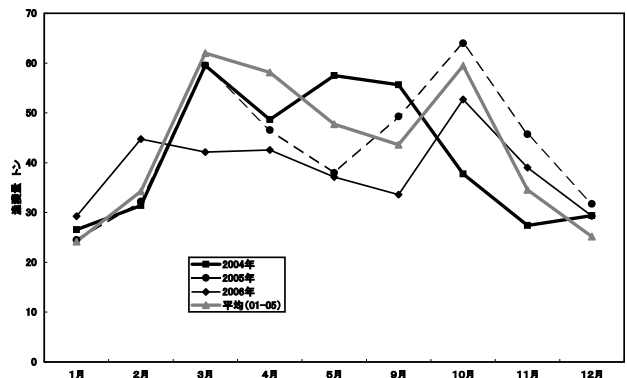


図2 月別漁獲量の比較

表1 田後漁協における2006年の月別銘柄別漁獲量

単位:kg

	1月	2月	3月	4月	5月	9月	10月	11月	12月	合計
銘柄①	150	120	163	145	220	225	300	150	140	1,613
銘柄②	315	380	305	373	515	580	990	380	285	4,123
銘柄③	875	1,199	905	770	1,170	1,360	1,680	925	670	9,554
銘柄④	1,560	2,445	1,795	1,813	2,385	2,495	2,495	1,810	1,282	18,079
銘柄⑤	2,424	4,120	2,740	2,890	3,526	3,790	3,330	3,279	2,280	28,379
銘柄⑥	3,412	5,713	3,225	4,369	4,800	5,261	4,571	5,233	3,475	40,058
銘柄⑦	3,761	5,835	3,400	4,643	4,995	5,090	4,156	4,385	3,495	39,760
銘柄⑧	3,610	5,188	3,494	5,638	5,447	5,150	5,165	2,295	2,015	38,001
銘柄⑨	1,642	2,065	920	1,655	1,312	905	1,820	1,410	927	12,656
銘柄⑩	1,035	570	570	1,390	492	615	2,140	1,595	1,395	9,802
銘柄⑪				80	25		5		75	185
その他	1,244	1,158	1,478	2,693	2,097	2,229	1,465	1,257	1,990	15,609
合計	20,028	28,792	18,994	26,457	26,984	27,700	28,117	22,718	18,029	217,817

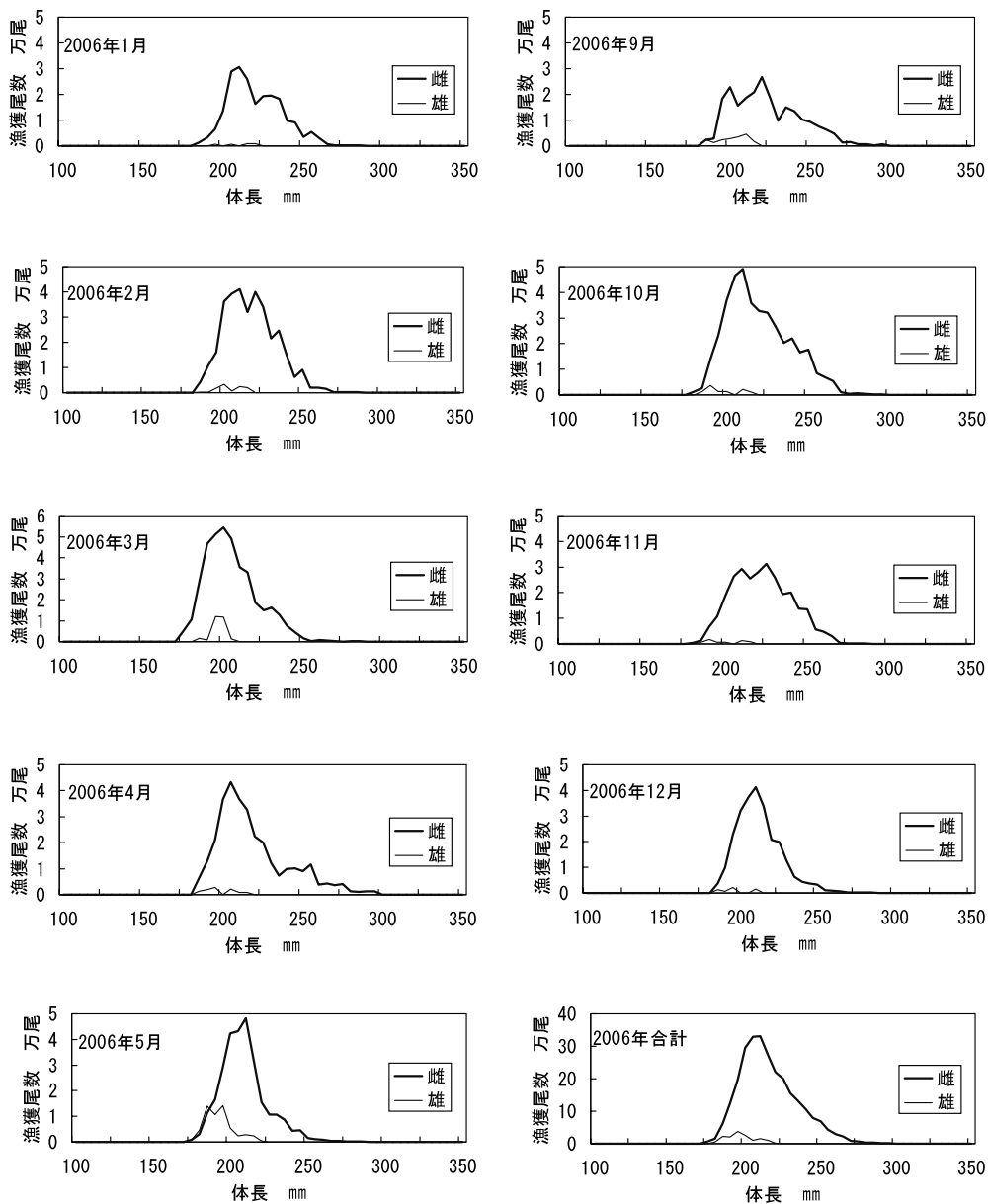


図3 鳥取県におけるヒレグロの月別雌雄別体長別漁獲尾数

